

令和7年度第1回徳島県社会教育委員会議録

■日 時：令和7年8月1日（月）10:00～12:00

■場 所：徳島県庁10階 大会議室

■出席者：徳島県社会教育委員14名

馬場委員長、田中副委員長、赤松委員、阿部委員、石倉委員、
榎本委員、大井委員、岸本委員、妹尾委員、大喜委員、豊田委員、
福本委員、八幡委員、吉本委員
事務局11名
教育次長、生涯学習課長、生涯学習支援課長、他事務局8名

■会議概要

1. 開会
2. 徳島県教育委員会あいさつ（教育次長）
3. 委嘱状の交付
4. 委員・事務局紹介
5. 委員長・副委員長選出
6. 議事
 - (1) 徳島県の社会教育・生涯学習の状況について（事務局説明）
 - (2) 徳島県社会教育委員について（馬場委員長説明）
 - (3) 意見交換
 - ・ 徳島県の社会教育及び生涯学習について思うこと
 - ・ 日頃取り組まれていること、活動の中で感じていること
 - (4) 今後のスケジュールについて（事務局説明）
7. 閉会

議事(3)意見交換について

馬場委員長	今回の会議は第1回であるため、委員の皆様には、日頃から取り組まれている活動内容や、今後社会教育委員として活動するにあたり、どのようなことを考えておられるのかを伺いたいと考える。
赤松委員	私は東みよし町に住んでいる。元々は学校事務職員として42年間勤務し、現在はフリーで子育て支援など様々な活動を行っている。 現職時代にはコミュニティ・スクールの推進に関わり、地域で協力して子どもたちを育てることの重要性を強く感じるようになった。現在は文部科学省よりコミュニティ・スクール推進の役割をいただき、今年で10年目となる。この活動は私自身にも大きな影響を与えている。

	<p>昨日は、沖縄県で九州・四国ブロックのイベントが開催され、現地でコミュニティ・スクールや地域学校教育活動に関わる方々と町づくりについて研修を行った。中でも社会教育の重要性が深く心に響いた。</p> <p>徳島県でも生涯学習課による研修が行われており、今後の展開を楽しみにしている。私自身もコーディネーター講習会などを受講し、子育て中の保護者の方々と話し合いながら、徳島県社会教育推進に関わっている。</p> <p>現在、不登校の子どもたちへの支援として、地域に居場所をつくる必要があると考え、「子育て・在宅の子（不登校）応援サロン」を実施している。この1年半ほどで少しずつ認知されるようになってきた。今後も地域での子どもたちの育成に力を注いでいきたい。</p> <p>文部科学省は、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一体的に進めるとしているが、実際には進みにくい状況である。これは、地域学校協働活動が生涯学習課、コミュニティ・スクールが他課の管轄であり、担当が異なるため一体的な運営が難しいと感じている。</p> <p>私は、コミュニティ・スクールをつくり、しっかりと運営していきたいと考えている。そのためにはファシリテーターの存在が不可欠であり、社会教育の学びを深めた人たちが、これからの役割を担っていける体制づくりが必要だと考えている。</p>
馬場委員長	<p>最後に述べられた地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的な運用を具体化していくことは、容易でないのが現実である。一部の都道府県では、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールを一つの課で所管している例もあり、連絡体制などが整っていることが望ましいと考える。</p>
阿部委員	<p>私は、県立川島中学校・高等学校の校長を務めている。故郷は神山町であり、妻は城西高校神山分校に勤務している。日頃から「まごの手プロジェクト」に取り組んでいることを誇らしげに話している。</p> <p>「まごの手プロジェクト」とは、高校生が学校で学んだ造園の知識を活かし、高齢者の一人暮らし世帯の庭の手入れを手伝う活動である。高齢者にとって高校生の訪問は楽しみとなっており、お菓子を用意して会話を楽しむなど、地域とのつながりが生まれている。</p> <p>神山分校の造園課では「石積甲子園」に取り組んでおり、生徒たちは関心を持っている。その延長で「とびたて留学ジャパン」に応募し、イタリアで石積みなどを学ぶなど、国際的な活動にも挑戦している。</p> <p>また、本校の乾教頭は県の生涯学習課に長年勤務された経験を持ち、本年度は大規模な「トークフォークダンス」を企画し、7月には、1年生約100名、2年生約110名に加え、地域の方々も参加していただき実施した。コミュニティ・スクールの先生方にも幅広い人員の確保に尽力いただき、県内で活躍されてい</p>

	<p>る 107 名の老若男女にご参加いただいた。</p> <p>この取組は探究活動と結びついており、地域課題について地域の方々から話しかけてもらうことで、生徒にとって探究活動の出発点となった。こうした活動の中から、社会教育が育まれていくのではないかと期待している。</p> <p>その後、生徒たちは地域の方とつながっていくことを目標とし、自分の興味のあることをさらに深く知りたいという思いから、企業に手紙を送っている。反響は大きく、1 時間に 6 件ほどの問い合わせがあり、高校生の誠意に応えたいと感じてくださる方々が多数おられる。今後は、オンラインでつながりながら事業を継続する予定である。</p> <p>また、夏休みに地域の方々に学校へ来ていただき講義をしていただく形式だった「サマーチャレンジ」の形を変え、こちらから地域へ出向く企画とし、「農業課題を探究するチーム」と、「神山の地域づくりを探究するチーム」が活動を行う予定であり、若い先生方が中心となって企画を立て、地域とのつながりを広げていこうと考えている。地域とつながりながら、最終的には県外や海外に出て経験を積み、再び吉野川市に戻って地域を支える人材が育つことを目指している。</p> <p>吉野川市は高校生を非常に大切にしてくれる地域である。私はこれまで学校教育にのみ携わってきたが、社会教育はつながりを持つことでどこまでも広がっていく可能性があると感じている。これからのことに不安もあるが、わくわくする気持ちを持ちながら、教頭に教えていただきつつ、校長として取り組んでいきたい。</p>
馬場委員長	<p>非常に参考になる事例をいただいた。神山分校の取組は大変興味深いものである。</p>
石倉委員	<p>私は、徳島県婦人団体連合会の理事を務めており、支部としては勝浦町婦人会の会長を担っている。徳島県婦人団体連合会の活動には、主に三つの柱がある。第一に、地域での活動を他地域へ広げる取組。第二に、日本赤十字社と連携した奉仕団活動。第三に、「複十字シール募金」活動と呼ばれる結核予防活動であり、全国的な取組の下部組織として「複十字シール募金」を行っている。この募金は、徳島県知事へ届け、結核予防事業に役立てていただく予定である。</p> <p>昨年度は、「戦争体験を語り継ぐ会」を美馬市で開催した。本年度は那賀町にて第 40 回を予定しており、中学生が平和学習で調べた内容を発表し、ウクライナの方や戦争を体験した高齢者の方々から体験談を伺っている。今年は戦後 80 年の節目にあたる年であり、この会が後生に語り継がれ、平和な社会に貢献できることを願っている。</p> <p>毎年秋には交流芸能大会を開催している。本年度は 9 月 30 日に実施予定で、各地域の伝統芸能や婦人会メンバーによる活動発表を行う。併せて防災学習も</p>

	<p>実施し、LPS ガス協会から補助金をいただき、講師を招いて講演を行っている。</p> <p>また、婦人問題調査研究発表会も行っており、昨年度は「生き生きいきる」をテーマに、阿波町が2,000人規模のアンケートを実施し、結果を報告した。</p> <p>地域でも婦人会主催の防災学習を継続して行っている。勝浦町では毎年学校と開催しており、昨年度は生比奈小学校で開催。本年度は、横瀬小学校で地域住民、防災士、県防災センター、赤十字の方々を招き、「災害時に自分の命を守るには」というテーマで、子どもを中心とした学習会を予定している。</p> <p>さらに、北方領土支援活動にも取り組んでいる。婦人会メンバーの高齢化が進む中、次世代へ活動をつなげることが課題となっており、若い世代がどのような課題意識を持ち、どのように取り組むかを地域の方々と話し合う場を設けている。</p>
馬場委員長：	<p>色々なつながりの中で地域の方々の話を聞く機会を設けているのは素晴らしいことである。</p>
榎本委員：	<p>私は、一般社団法人「旅の葉」の代表理事を務めている。福祉の現場で15年間勤務した後に起業し、現在の活動は8年目を迎えている。</p> <p>小学生の頃から福祉に関心があり、将来はこの分野で働きたいと考えていた。現在は障がい分野を中心に活動しているが、社会教育への関心が高まったきっかけがある。徳島県のイベントで、障がいのある方の安全な参加環境を求めた際、「なぜ必要なのか」と問われ、「車椅子の方が来ると一般客が現実に戻されて楽しめない」と言われたことが、強い問題意識につながった。</p> <p>この経験から、大人になってからではなく、幼少期から「さまざまな生き方がある」ことを伝える必要があると感じ、知ることの大切さを社会教育の中で広めたいと考えている。</p> <p>現在は、阿波市での就労支援、民宿の運営、アミコビルでのインクルーシブカフェなどを展開している。障がい者や高齢者だけでなく、子どもたちが訪れて体験することで、福祉への理解が深まり、社会教育につながると考えている。</p> <p>福祉の課題は広く、障がいや高齢だけでなく、誰もが生きづらさを抱えている。だからこそ、私たちが動き、課題解決に取り組む必要がある。</p> <p>現在は、障がいのある方々が自分らしく生きる姿を伝えるコンサートイベントを企画している。障がいには知られていない種類も多く、健常者もいつ障がい者になるか分からない。そうした現実を社会教育の中で伝えていきたい。</p> <p>8月3日には、「トリチャーコリンズ症」という障がいを持つ愛媛大学の先生による講演を予定している。徳島県にもこの難病の方がいると聞いており、当事者の声を通じて子どもたちの教育に役立てたいと考えている。</p> <p>アミコビルでは、子ども食堂の延長として毎日の食事支援を行っている。飲食店で発生するフードロス「笑顔の1食」に変える取組で、300円のリボン</p>

<p>馬場委員長</p>	<p>を購入し、壁に貼ることで支援に参加している。現在は 400 人以上の支援者があり、月に約 50 人の子どもたちが食事に訪れている。徳島県内では 3 店舗に広がっており、今後さらに増やすことが課題である。</p> <p>地域の飲食店が子どもたちを守る活動を広げていきたい。四国大学とも連携し、福祉・介護現場の人材不足に対応するため、学生が実習としてカフェや就労支援に参加している。</p> <p>その中には、海外出身で日本の福祉を学ぶ学生もいる。母国では福祉制度が整っておらず、資格を取っても活かせる場がないという現状がある。そうした話を地域の子どもたちと共有し、多文化や日本の福祉を学ぶ機会を作っていきたい。</p> <p>インクルーシブ教育の一環として、小学生もカフェに訪れ、車椅子の店員や遠隔操作ロボットを通じて「どんな状況でも働ける」ことを学んでもらっている。子どもたちに生き方や選択肢をイメージしてもらうことが重要であり、カジュアルな場を通じて伝えることが、私の社会教育の役割だと感じている。</p> <p>障がいに関することはもちろんのこと、知らないことをいかにして知っていくかという姿勢が、極めて重要であると考えます。</p>
<p>大井委員</p>	<p>私は、上勝町立上勝中学校の校長を務めている。上勝町は、ゴミを 43 分別するゼロウェイストの取り組みや、葉っぱビジネスの「いろどり」という会社がある町である。</p> <p>本校では 3 年前から、上勝町のゼロウェイストを学び、「上勝中学校版循環型社会構想」を展開している。今あるものや捨てられるものに再利用やサービスの価値を加え、生活を豊かにすることを目指す取組である。</p> <p>例えば「かまどベンチ」は、かまどの上に天板をのせたものである。本校では薪ストーブを使用しており、1 年中薪があることから、学校が避難拠点になれるように整備した。かまどベンチでお湯を沸かし、役場の総務課からローリングストックの防災食を提供いただき、上勝番茶とともに地域の方々と休憩する活動を GX フェスティバルで実施した。</p> <p>GX フェスティバルでは、廃品の解体分別や草染めなどのワークショップを企画・提供し、本校の活動が社会とつながる機会となっている。全校生徒 17 名が 7~8 個のイベントを展開するため、地域の多くの方々を巻き込んで活動している。</p> <p>本年度は、学校・家庭・社会のウェルビーイングの循環を目指し、ワークショップの講師との連絡、チラシ作成・配布、マスコミ対応などをすべて生徒が担当している。地域の力を借りながら、学校教育が地域人材の育成や地域づくりにつながることを期待している。</p> <p>町内の「もくさん」という会社が廃材を使って楽器「カノン」を制作するワ</p>

<p>馬場委員長</p>	<p>ークショップを行ってくれることになっており、生徒たちが打ち合わせを進めている。人口減少地域である本校が活動を継続していくには、関係人口を増やすことが鍵になると考えながら取り組んでいる。</p> <p>上勝町は、従来から多様な活動に取り組んできた地域である。以前、ニュージーランドへ子どもたちを派遣する事業の存在を知り、非常に素晴らしい取り組みであると感じた。今後も、さまざまな地域や団体とつながりながら、意欲的に活動を展開していただきたい。</p>
<p>岸本委員</p>	<p>私は海陽町で、近隣地域に支えられている小学校に勤務している。地域の方々との関わりを通して故郷を愛し、自分の学びにつなげる活動に取り組んでいる。</p> <p>その成果として、協働して学ぶ力や、自分の意見を発表する力が育まれていることを教職員一同実感している。一方で、課題としては、社会参画する力や社会とつながる力の育成が必要であると考えている。</p> <p>さまざまな体験活動を発信しているが、発信するだけでなく、聞いていただいた方からご意見をいただくことで、自分たちの学びの価値が認められ、自信につながると感じている。</p> <p>先日のコミュニティ・スクールでは、6年生が防災学習のフィードバック後に発表を行った。発表だけで終わらず、聞いていただいた方からご意見をいただき、町の方へ提案するという流れが生まれたことで、子どもたちが新たな学びを広げる実感を得ている。</p> <p>1～2年生の社会参画は難しいのではという意見もあるが、教室を一つの小さな社会と捉え、教室内で社会につながろうとする力が育まれるのではないかと話し合っている。</p> <p>もう一つの課題は、学校現場に社会教育とのつながりをもっと意識させたいという点である。私たちは学校から外へ働きかけているが、既存の社会教育の中にも必要な学びがあることに気づいた。</p> <p>ただし、教職員全体に社会教育への理解が十分にあるとは言えず、今後は学校側からも積極的に働きかけていきたいと考えている。</p>
<p>馬場委員長</p>	<p>教職員を対象とした事業に、より力を入れて取り組んでいただき、社会教育の意義や役割について広く理解を深めていただければと考える。</p>
<p>妹尾委員</p>	<p>今回、初めて社会教育委員会に選出された。現時点では右も左も分からない状況であるが、今後は皆様から多くを学びながら、地域のために尽力していきたいと考えている。</p> <p>現在は起業して活動しているが、前職では行政職員として5年間勤務してい</p>

	<p>た。その間、教育に関わる部署に所属し、社会教育や学校教育等に一貫して携わってきた。</p> <p>その中で、小学校・中学校・高等学校の児童生徒と関わる機会が多くあった。特に印象的だったのは、小学生は自分の夢ややりたいことを大人に対して積極的に語ってくれる一方で、中学生や高校生になると、そうした話をあまりしなくなるという変化に気づいたことである。当時、それは周囲の大人たちが楽しそうに見えないため、子どもたちが将来に希望を持ってなくなっているのではないかと感じた。</p> <p>その経験から「社会を変えていきたい」という思いが芽生え、退職して起業に至った。現在は、徳島県内でフリーランスとして活動する者や、起業を志す若者たちを受け入れ、活動拠点となるコミュニティづくりを行っている。若者たちが地域とつながり、自らの得意分野や強みを生かして地域課題の解決に取り組み、社会に貢献できるような環境づくりを仕事としている。</p> <p>また、2年前には地元の阿波高校から学校運営協議会委員に選任され、学校教育に携わる機会を得た。これを契機に教育への関心がさらに高まり、より力を入れていきたいと考えるようになった。</p> <p>現在は、高等学校の「総合的な探究の時間」の授業にも関わっており、生徒の自立・自己成長・主体性の育成を支援するとともに、生徒と地域住民が関わるきっかけづくりや、地域の魅力に気づき、地域課題に目を向けることができる生徒の育成を目指している。</p> <p>これらの活動を通じて、地域全体で教育を推進する体制づくりを、社会教育委員として進めていきたいと考えている。大人たちが積極的に学生を巻き込みながら、自らも学び、社会教育の場をともに創出していけるよう努めていきたい。</p>
馬場委員長	<p>今後も学生たちとのつながりを大切にしていきたい。</p>
大喜委員	<p>私は徳島文理大学人間生活学部児童学科の2年生である。今回、初めて社会教育委員会に参加した。大学では保育士資格のほか、幼稚園教諭・保育教諭・小学校教諭の免許取得を目指して学んでいる。</p> <p>今回は、取り組んでいるボランティア活動について紹介する。活動内容は、特別支援を必要とする子どもへの学習支援カウンセリングである。これは、塾のように成績向上を目的とするのではなく、子どもが家庭で自主的に学習できるようになることを目標としている。子ども自身が苦手な部分に気づき、それに応じた支援方針を私たちが見つけながら支援するスタイルである。現在は、小学生や特に幼稚園児に対して、言葉の発達支援を中心に活動している。</p> <p>この活動を始めたきっかけは、教育実習の経験もなく、子どもと関わる機会がなかったため、授業の練習になればという軽い気持ちからであった。しかし、</p>

	<p>支援を重ねる中で、子どもの細かなつまずきや発言に目を向ける力が養われ、今後の姿を予測する力も身につけることができた。</p> <p>このように、ボランティア活動は地域の方々の役に立つだけでなく、学生自身が得られるものも非常に多いと感じている。普段の学校生活でも、友人と「何かボランティア活動はないか」と話し合い、さまざまな活動に参加するようになった。子どもと年齢に近い大学生だからこそできることがあると実感している。</p> <p>今後は、社会教育委員としての経験を活かし、大学生としてできることを考え、それをできる限り実践していきたいと考えている。</p> <p>馬場委員長 今後の活躍に大いに期待したいと考える。さらに、大学卒業後も、こうした活動が継続されることは、地域社会にとっても意義深いものであり、望ましいことである。</p>
<p>豊田委員</p>	<p>今回、初めて社会教育委員に選出された。私は、徳島県公民館連絡協議会副会長という立場で参加している。また、板野町教育委員会に勤めている。</p> <p>馬場委員長から板野支援学校に関するお話を伺い、同じ町内にありながら私にとっては初めて耳にする内容であった。今後は、こうした情報にも積極的にアンテナを張っていかなければならないと感じた。</p> <p>様々な立場の方々と関わらせていただきながら、今後の活動に取り組んでいきたいと考えている。</p>
<p>馬場委員長</p>	<p>委員同士におかれては、ぜひ相互に連携を深めていただき、今後の活動へとつなげていただきたい。</p>
<p>福本委員</p>	<p>私は、NHK 徳島放送局に勤務している。NHK では、平日夕方 6 時から「とく 6 徳島」という番組を放送している。</p> <p>社会教育は、非常に重要なテーマの一つであると認識している。私自身、徳島県に赴任してからまだ 1 か月ほどであるが、本日は委員の皆様のご発言を拝聴し、非常に興味深い取り組みが数多く行われていることを初めて知ることができた。ぜひ、今後取材に伺わせていただきたいと考えている。</p> <p>社会教育委員という立場ではあるが、これまで社会教育の現場に深く関わる機会は少なかったので、気づいたことや外部の視点を活かし、さまざまな活動について積極的に発信していきたい。</p>
<p>馬場委員長</p>	<p>NHK には委員としてご参画いただき、様々な事例をご紹介いただけるようお願いしたい。また、NHK は多様なコンテンツを制作されていることから、そのような取り組みについても、今後ご紹介いただきたい。</p>

<p>八幡委員</p>	<p>私は、徳島県幼保連携型認定こども園 PTA 連合会の副会長を務めている。また、徳島市においても会長を務めている。</p> <p>社会教育に対して強い関心を持っており、地域とのつながりを大切にしていきたいと考えている。近年、共働き家庭が増加する中で、保護者同士のコミュニティが希薄になってきているのではないかと感じている。そのため、母親同士のつながりを意識的に育んでいくことが重要であると考え、日々活動に取り組んでいる。</p> <p>現在は、スマートフォンひとつで情報が得られる時代であるが、それが本当に良いことなのか、疑問を持つこともある。母親が家事と育児を担い、父親の協力が十分でない家庭も依然として多く、結果として女性の活躍が目立つ状況にある。</p> <p>こうした背景を踏まえ、地域やご近所同士のつながりを改めて見直し、育んでいく必要があると感じている。私が子どもの頃にあったような、温かく見守られる地域社会を取り戻し、子どもたちにとって安心できる環境を整えることが、今後の大きな課題である。</p> <p>私は、子どもを出産するまで保育士として勤務していた。子どもに関わるのが大好きであり、今こそ子どもを中心に据えて大人たちが考え、行動していかなければならない時代になったと強く感じている。社会教育で学んだことを園に持ち帰り、保護者の皆様に伝えていくことができればと思っている。</p>
<p>馬場委員長</p>	<p>ぜひ、保護者同士のつながりを深めて、多くの方々に社会教育にご参画いただくことをお願いしたい。</p>
<p>吉本委員</p>	<p>私は、昨年度より「とくしまみらい会議」の委員を務めている。NPO 法人「べんざいてんのお家」の代表を務め、地域で子どもと大人が自分らしく生きるきっかけを得ながら、共に育ち合う場づくりを行っている。</p> <p>2020 年までは徳島県内の公立中学校で家庭科教員として勤務していた。今日に至るきっかけは、「誰もが一人ひとりの在り方で幸せに生きられる社会をつくりたい」という思いが芽生えたことである。徳島県では教育の選択肢が少なく、公立学校に通わない選択をした子どもたちが不登校となった際の居場所づくりが重要だと考え、オルタナティブスクールの運営に取り組んでいる。</p> <p>中学 1 年生の道徳の教科書にも掲載されている植松努氏は、「人の可能性が奪われない社会」「児童虐待のない社会」を目指し、エンジンロケット教室を開催している。私はその活動を徳島県内で唯一実施しており、月 1 回授業に取り入れている。</p> <p>また、3 年前からは保護者の居場所づくりとして「心の保健室」を始めている。これは悩みを解決する場ではなく、打ち明けることで新たな選択肢に気づ</p>

	<p>くことを目的としている。コミュニケーション力を養い、「この人の言うことはよく分からないけれど、何かを伝えたいのでは」と共感的に関わる関係性を築くため、研修やワークショップも実施している。</p> <p>私は、小学生3人と保育園児1人の母親である。子育てを通じて、子どもと母親という存在が私にとって大切な支援対象であると強く感じている。公民館のように、子どもから高齢者までが「ごちゃまぜ」で生きていける場所と社会をつくっていきたいという思いを、ここで共有させていただいた。</p>
馬場委員長	<p>フリースクールを通じて、ぜひご縁をつなげていただきたいと考える。</p>
田中副委員長	<p>皆様のご発言は非常に興味深く拝聴した。私は香川県出身であり、連れ合いは徳島県生まれである。一昨年までは高松市内の小学校で校長を務めていたが、少し早めに退職し、現在は鳴門教育大学にて学校経営を担当している。これまで地域連携に携わってきた経験が、同大学から声をかけていただいた背景にあると捉えている。</p> <p>現在は、学部生および現職教員からなる院生に対し、社会教育について講義を行っている。授業では、「子どもたちが地域の人々と関わりながら、故郷に愛された記憶を持つことが、これからの社会の基盤となるのではないか」との視点を提示している。たとえその故郷で暮らし続けることがなくとも、地域の人々に愛された経験があることで、新たな土地においてもその地域の子どもたちを大切にできるようになる。</p> <p>一方で、そうした経験がない場合、「我が子主義」に陥り、社会全体のつながりが希薄になる恐れがある。こうした課題意識を持ちながら、日々授業を展開している。皆様のお話を今後も継続的に伺い、学びを深めていきたい。</p> <p>さらに、部活動の地域移行についても、学生とともにアンケートを実施しながら検討を進めている。実際には、学生たちは部活動に強い意欲を持っている。しかし、働き方改革の影響により教職員が疲弊し、部活動の指導が困難になっている現状がある。その結果、部活動で良い経験をしたと願う学生が、十分な活動ができず、次世代にその価値を伝えられないという課題が生じている。</p> <p>地域の中で部活動が展開される流れの中で、学生の意欲を損なうことなく、より良い形で活動を継続できるよう、授業内で学生と議論を重ねている。</p>
馬場委員長	<p>一通り皆様のお話を伺ったところで、ここで一旦、内容を整理させていただく。私自身も、皆様のご発言から多くの示唆をいただいたように感じている。これからの方向性について、前向きかつ創造的に、そして深く考えていくことの重要性を、改めて痛感させていただいた会議であり、心より感謝申し上げます。</p>